

7 公害苦情発生状況

令和2年度に受け付けた公害苦情は190件であった。このうち、典型7公害(大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下)に係るものが15件であった。内訳は表7-1のとおりであった。

表7-1 各公害の件数

分類	公害の種類	件数
典型7公害	大気汚染	0
	水質汚濁	5
	騒音	6
	振動	0
	悪臭	4
	土壌汚染	0
	地盤沈下	0
	小計	15
その他	不法投棄	145
	その他	30
	小計	175
	合計	190

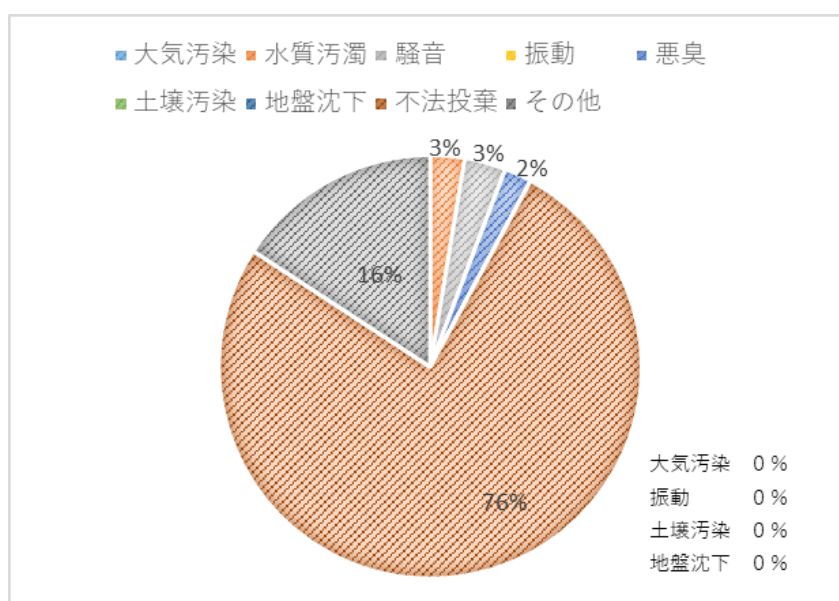


図7-1 各公害別割合

典型7公害のうち、苦情件数が最も多かったのは「騒音」で6件であった。「騒音」の原因は、農業用機械の使用によるものが3件、工事関係が1件、自動車関係が1件、その他が1件である。次に多かったのが「水質汚濁」の5件であり、原因は家庭生活関係が2件、産業排水関係が3件であった。「悪臭」の苦情は4件で、原因は野焼きが2件、産業排水関係が1件、家庭生活排水が1件であった。「大気汚染」「振動」「土壌汚染」「地盤沈下」については苦情がなかった。

典型7公害以外について、不法投棄が145件、その他が30件であった。不法投棄145件のうち、138件が家庭ごみを含む投棄によるもので割合としてはかなり多かった。

その他の30件の内訳はすべて野焼きであった。

表7-2 年度別苦情件数

年 度	件数
平成16年度	32
平成17年度	113
平成18年度	95
平成19年度	120
平成20年度	83
平成21年度	77
平成22年度	57
平成23年度	69
平成24年度	49
平成25年度	44
平成26年度	50
平成27年度	16
平成28年度	53
平成29年度	189
平成30年度	166
令和元年度	183
令和2年度	190

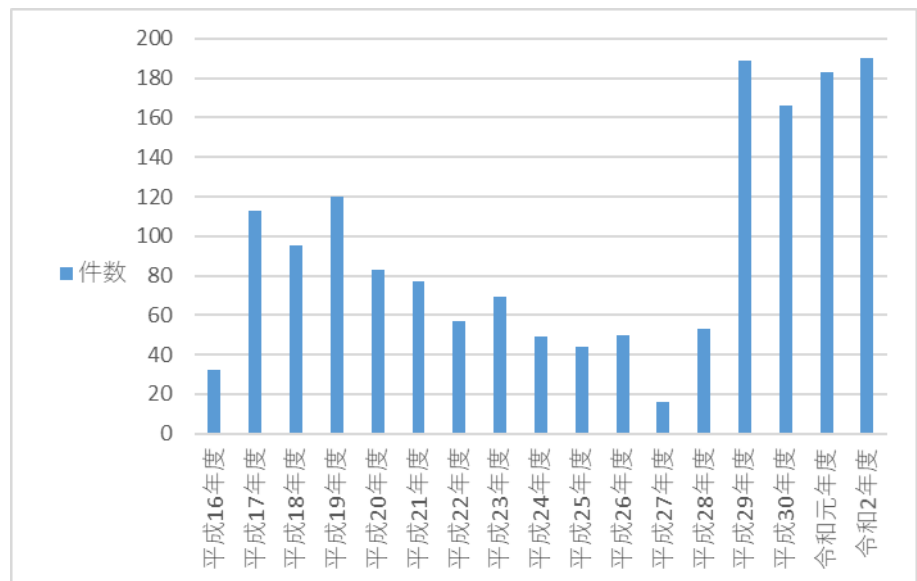


図7-2 苦情件数の推移

過去17年間の年度別苦情件数を表7-2及び図7-2に示す。

近年の動向として、平成19年度から平成28年度まで苦情件数は減少傾向にあったが平成29年度以降は増加傾向にある。これは監視員によるパトロールの強化により不法投棄の発見件数が増加したためである。

令和2年度の苦情件数は190件となり、そのうち145件が不法投棄であった。前年度と比べ不法投棄の件数は6件の増加となった。監視体制の強化だけでなく、市広報誌及びホームページ等での市民への周知の徹底に努め、苦情件数の減少につなげていきたい。